

「中間まとめ」に関する県民からの意見募集の結果

1 意見募集の方法

- (1) ホームページ等による一般県民に対する意見募集
 (2) 各市町村に対する意見照会
 (3) 各種団体（小・中・高校長会、PTA、産業界等）に対する意見照会
 (4) 地区懇談会出席者との意見交換（アンケートを含む）

①東青地区 (8/28)	[参加者 10人 報道 1社 (2人)]
②西北地区 (8/25)	[参加者 21人 報道 1社 (1人)]
③中南地区 (9/ 2)	[参加者 18人 報道 1社 (1人)]
④上北地区 (8/26)	[参加者 13人 報道 1社 (1人)]
⑤下北地区 (8/24)	[参加者 12人 報道 2社 (2人)]
⑥三八地区 (8/31)	[参加者 27人 報道 2社 (2人)]
◆ 合計	[参加者101人 報道 8社 (9人)]

2 回答数等

ホームページ等による一般県民からの意見	0件	
各市町村からの意見	27件	
各種団体からの意見	4件	
地区懇談会での発言者数	東青地区	2人
	西北地区	2人
	中南地区	1人
	上北地区	4人
	下北地区	2人
	三八地区	4人
	計	15人
地区懇談会でのアンケート回収数	東青地区	7人 (70.0%)
	西北地区	14人 (66.6%)
	中南地区	10人 (55.6%)
	上北地区	9人 (69.2%)
	下北地区	4人 (33.3%)
	三八地区	18人 (66.6%)
	計	62人 (61.4%)

3 意見の内容

頁	項 目
1-3	第1 県立高等学校将来構想の検討に当たって
表現等の加除修正に関する意見	
1	○ <u>時代の変化、イノベーション（技術革新）に伴う将来の職業の変化（ロボット化、AI知能の発達などによる）に対応する記述もあって良いのではないか。</u>
3	○ 「市民性」とは、シティズンシップ教育を念頭に入れてのことだろうが、「市民社会」の定義は多岐にわたっているので、 <u>「市民性」「市民社会」は使用しない方が良いのではないか。</u> 使用するのであれば、きちんと定義すべき。(外1件)
提言内容に対する意見	
1-2	○ 「子どもたちが夢や志の実現に向けて、自らの人生を切り拓き、他者と助け合いながら幸せな暮らしを営むことのできる力を育むための高等学校」とあるが、本市にとっても、意を同じにするところである。
2	○ 背景やこれからの時代に求められる力は初等教育が求める力と一貫性があり、説得力がある。「生きる力」の育成は、幼・小・中・高の系統性を踏まえ、計画的・継続的に行われなければならない。
3	<p>〈オール青森〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>一つの学校、一つの地域という視点を無視した改革は一考を要すると考える。</u> ○ 「オール青森」の視点を重視した検討は重要なことであるが、<u>具体的な再編・整備（学科・コース等の見直しや統廃合）内容が見えにくい。</u>（外1件） ○ 「オール青森」の視点による検討については、少子化、生徒・保護者、地域のニーズを踏まえて<u>積極的に推進すべきもの</u>と思う。 ○ 『オール青森』の視点による検討については、文面のとおり<u>実現に向けて努めてもらいたい。</u>（外1件）

頁	項 目
4-12	第2 学校・学科の在り方
表現等の加除修正に関する意見	
7	○ 農業科・工業科・商業科・水産科・看護科については、いずれも項目2～3個で5～11行述べているのに対し、 <u>家庭科だけは項目1つで3行だけである。「家庭科」の目指す人財も明確ではない。「家庭に関する学科をなくする又は縮小する方向なのだろうか」と寂しい気持ちになるので、もう少し記述を増やしていただきたい。</u>
提言内容に対する意見	
4-12	〈学校・学科の在り方全般〉 ○ 子どもたちが将来を担っていくためには、今後どのような資質・能力が求められていくのかなどを想定し、学科など教育内容に関しても検討を深めていただきたい。 ○ 地域の産業構造に留意した学校・学科の配置をお願いしたい。 ○ 子どもたちの未来に向けた学校・学科の設置を望む。
1 全日制課程の方向性	
4-5	〈普通科系の専門学科〉 ○ 理数科・英語科等、普通科系の特色ある学科の多くは志望者が減少傾向にあり、ニーズに合っていないと思われる。 <u>普通科に戻しコース制にしてはどうか。</u> ○ <u>その学科の優位性や意義が県民に伝わっておらず、卒業後どのような進路を達成しているかや、将来にどう役に立ったかなどの情報があまりない。</u> また、専門は大学で選択するという理解が大勢である。 ○ 地域性(市町村)を考慮した考え方として、 <u>生徒の多様な興味、関心等への対応を目的とした学科をもつ高校設置を検討頂きたい。</u> 具体例としては、スポーツ振興、発展に奉仕する人財育成を目指し、市町村のもつ体育施設と連携し、他県からの生徒の受け入れを可能にした学校の設置。また、スポーツコース科の「拠点校」を南部・津軽地域に一つずつ新設。
4	〈普通科〉 ○ 「普通科における“職業に関する専門科目も履修できるコース”の設置」については、基礎的学力と専門知識の取得を得ることができ、幅広い選択肢を得ることができることから、より高い目標に向かって果敢にチャレンジする「逞しい心」の育成に寄与するものとして期待できる。
5-8	〈職業教育を主とする専門学科〉 ○ 職業教育を主とする専門学科の卒業生が、地域産業の即戦力として活躍できる教育課程を編成してほしい。 ○ <u>「情報」と「福祉」に関する学科が未設置とあるが、この二つの「科」こそ需要が高いと思われる。</u> (外1件)
2 定時制課程・通信制課程の方向性	
10	〈定時制課程・通信制課程〉 ○ 定時制課程において、特別支援学校との連携、スクールソーシャルワーカー等専門スタッフの配置との記載があるが、是非とも積極的に進めてほしい。
3 多様な教育制度の方向性	
10-11	〈全日制普通科単位制〉 ○ 全日制普通科単位制では、利点を十分に活用していないとの報告であるが、国公立大学進学志望者が圧倒的に多い中では選択科目等に余裕がないのは明らかであり、今後更に指導内容の充実が期待される。

11

〈中高一貫教育〉

- 進学校における併設型中高一貫教育は効果的だと思う。
- 先進県での取組を参考にして、医学部医学科進学希望者や難関大学進学希望者の育成を充実させていただきたい。
- 郡部の小規模校での一貫教育は小中高一貫教育となり、学習意欲の低下と人間関係の固定化による弊害が懸念される。
- 中高一貫教育は連携型も併設型も少子化を前提とした在り方を模索していかなければならないと思う。
- 中高一貫教育は、ボーディングスクール（全寮制の寄宿学校）にするべき。青森県らしさをいろいろな面を出してほしい。

頁	項 目
13-18	第3 学校規模・配置
表現等の加除修正に関する意見	
14	<p>○ 単に通学可能であるかどうかにとどまらず、すべての生徒に課外（部活動、長期休業中の補習、等）の活動を含め充実した高等学校教育を保障することが後期中等教育に課せられた責務である。したがって、「<u>地理的な要因から高等学校に通学することができない地域</u>」を「<u>地理的な要因から高等学校への通学が困難な地域及び教育活動への参加が制限される地域</u>」と変更すべき。また、通学環境の充実については県が主体となって取り組むべき案件であり、その旨明記することが望まれる。</p> <p>○ <u>アクティブ・ラーニングの定義を本文で記述し、その必要性をもっと強調して欲しい。</u></p>
16	<p>○ 「<u>① 基本となる学校規模</u>」の「<u>1学年当たり4学級（160人）の規模であることが求められる</u>」の記述は、「原則」や「程度」の表現が無いことから、厳密に4学級以上とするのだと読み取られ、標準として4学級以上であり、それ以下の3学級等もありうるとは、とても読み切れず誤解を与える。ここは最もセンシティブな所で、この中間まとめの核となる部分であることから、例を挙げるなどもう少し丁寧な詳細な記述をする必要がある。</p> <p>○ 「<u>① 基本となる学校規模</u>」の注釈「*21」は、「<u>③ 職業教育を主とする専門学科の拠点校の学校規模</u>」においても記載する方が誤解を生じさせず、理解しやすく、親切な記述になると思う。</p> <p>○ 「<u>他の高等学校へ通学することが困難な地域</u>」について、十分な説明をする必要があり、説明が不十分であれば、それぞれの地域が都合の良いように理解する可能性が否定できない。</p> <p>○ 「<u>② 普通科等の重点校の学校規模</u>」末尾に下記内容を付記すべきである。【なお、三市重点校への通学が著しく困難な地域にある高等学校においては、この学校規模の標準を満たさない場合であっても重点校とすることができる。】</p> <p>○ 高等学校教育においては、「<u>確かな学力</u>」「<u>豊かな心</u>」「<u>健やかな体</u>」からなる「<u>生きる力</u>」を育むことが求められるとしながら、<u>16ページ「学校規模の方向性」</u>の（今後の方向性）及び「<u>① 基本となる学校規模</u>」の中では、「<u>（健やかな）体</u>」についての文言が欠落している。「<u>（健やかな）体</u>」にまつわる文言を加え、<u>三位一体の考え方をきちんと示すべきと考える。</u></p>
17	<p>○ 「<u>当該高等学校の所在する市町村と連携協力し、</u>」とあるが、当該高校の所在する市町村のほかに周辺町村もあるので、表現を変えたらどうか。</p>
提言内容に対する意見	
1 学校規模・配置の検討に当たって考慮すべき観点	
13-14	<p>〈<u>通学環境への配慮</u>〉</p> <p>○ <u>一度、市町村別に通学困難度を“級”に分けて分類してはどうか。</u></p> <p>○ 「<u>地理的な要因から高等学校に通学することができない地域が新たに生じることのないよう配慮が求められる</u>」とあるように、高校教育を受けるに当たって、<u>地域格差が大きくなるようにお願いしたい。</u></p>
14-15	<p>〈<u>充実した教育環境の整備</u>〉</p> <p>○ 普通高校においては、選抜性の高い大学や医学部医学科への入学者及びその他の大学・専門学校・公務員志望等の希望を叶えるため、特定の学校を位置付けるなど、これまで以上に学校の特色化を明確にする必要があると考える。</p> <p>○ 職業教育校においては、将来のスペシャリストや牽引する人材、地域産業の担い手の育成を図るため、専門知識に造けいを深め、高資格を取得できるような内容を検討願いたい。</p>

15	<p>〈重点校・拠点校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「普通科等において、選抜性の高い大学への進学に対応した取組」を行う高校を重点校と位置付け、6地区毎に配置するというような文言があるが、そういう高校を<u>重点校</u>というような位置付けを行うことは<u>いろいろな誤解を生む危険性がある</u>と思う。 ○ 重点校と拠点校を設置することにより、<u>高校生が一部の市部に集中する恐れがあるのではない</u>か。違いを明確に示す必要があると考える。
<p>2 学校規模の方向性</p>	
16	<p>〈学校規模の標準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化に伴う進学者の減少が確実な状況であることから、<u>学校規模の標準を明確にした点は評価</u>できる。 ○ 特色ある教育活動の展開には<u>1学年当たり4学級規模に賛成</u>である。 ○ 高校教育の質の確保・向上、切磋琢磨できる教育環境という視点から考えると、高校は<u>1学年当たり6学級以上が適当</u>である。教育課程・教科外活動等を考えると、むしろ6学級を下回る学校規模を例外的なものとして捉えることが妥当であろう。 ○ <u>全て1学級35人</u>とすることで、<u>1つの高校におけるクラス数の維持</u>をお願いしたい。 ○ 小規模の学校で、<u>小規模だからできること、小規模だから活かす</u>という考え方が無いことが残念。<u>小規模のメリット・デメリットを示すことが大事</u>である。 ○ <u>学校規模の標準の緩和及び特色ある学校経営への配慮</u>をお願いしたい。(外2件) <p>〈高等学校教育を受ける機会の確保に向けた配慮〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の通学に支障を来す場合等、<u>地域の事情を考慮し、それぞれの事情に適切に対応した配置計画</u>をして欲しい。(外1件) ○ 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校への対応については、<u>関係市町村等の理解を得ながら検討</u>することが是非必要である。
<p>3 学校配置の方向性</p>	
17	<p>〈学校配置〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ より良い教育環境を整えるため、望ましい学校規模や配置が求められることはやむを得ないが、<u>特定の地域に高等学校が集中することは本意ではない</u>。高校への通学が地域に与える影響が大きいので、例えば三市以外の地域においても<u>地域の高校を残していく方向性を考えられない</u>か。(外2件) ○ <u>学校規模の標準を満たさない高校が増えつつあるが、全県的な視野から歴史・文化・経済等の地域的背景の関係性など、地域の特性を踏まえて、それぞれの事情に適切に対応した柔軟な配置に配慮すべき</u>である。(外2件) ○ 学校に関わる様々な事例報告をみると、高校を核とした地域づくりで成果を上げているところが圧倒的に多い。したがって、いわゆる<u>地方創生の視点からも高校の配置を検討していただきたい</u>。特に特色のある高校は、<u>その規模にかかわらず存置する方向で考えていただきたい</u>。(外1件) ○ 具体的な再編にあたっては、例えば<u>A地域に普通科を設置するのであれば、B地域に商業科、C地域には農業科を配置する</u>など、<u>地域性、専門性等を最大限考慮し、地域経営感覚をもって将来構想を練り上げていただきたい</u>。 ○ 三市の全日制普通高校志望者は、統廃合や学級減となった場合、周辺市町村の県立よりも市内の私学を選ぶ傾向にある。保護者の経済的負担等を勘案しても、<u>これ以上大規模な県立高校の統廃合を急ぐべきではない</u>。

〈地域の意見を伺う協議会等〉

- 少子化に歯止めがかからない場合は、速やかに再編検討会（仮称）などを立ち上げ、今後の方向性を示す必要がある。ただし、地域の特性等を考慮し、柔軟に対応することも必要と考える。
- 各市町村長、教育委員会、地域住民を構成員とした小規模な部会を設置し検討会を開催することも、より綿密なデータの中で、より良い将来構想策定に寄与するものと考えられる。
- 「学校規模・配置」については、計画段階から市町村長をはじめ地域の関係者と協議をしながら、地域住民が納得できる手続きを経る必要がある。計画を進めるための市町村・地域関係者との協議では意味がない。（外1件）
- 自治体の長等も会議の構成メンバーとすべきである。特に、今後、実施計画策定段階では、自治体の長の意見をしっかりと聞いた上で策定すべきと思う。（外1件）
- 今後の再編に当たっては、検討過程の説明や意見聴取を行うなど、具体的な高等学校名を公表する前に、市町村に対して丁寧かつ積極的なコミュニケーションを図っていただきたい。（外4件）
- 広域市町村を対象とした高等学校の新設を考慮した場合、自らの自治体ばかりでなく周辺地域の現状をも勘案した構想となるよう、周辺自治体と協力していく事が重要である。（外1件）

〈通学支援〉

- 経済的・地理的な理由等から、通学が困難な場合が出てくる可能性がある。全ての子どもたちが、平等に高等学校教育を受ける機会を確保するためには、交通手段等の対応策を講じる必要がある。（外1件）
- 郡部小規模校の統廃合に当たっては、通学の利便性・費用が大きなネックとなる。やむを得ない場合にも、通学バスの運行・交通費の補助を行うとともに、市部に通学する生徒のための「学生寮」を設けるなど、大胆な方策を考える時期に来ているのではないだろうか。
- 県立高校の再編にかかる費用負担等（スクールバス等）については、県費をもって対応することとされたい。

18

〈統合の方法〉

- 統合した場合の学校は、明確な理念と目標を持って教育を組み立てて欲しい。その学校が地域に貢献する人材を育成し、置かれた地域社会にとって有益になるということをきちんと示さなければならず、かなり難しい設定が必要になると考える。

〈募集停止の基準〉

- 統合・閉校等の厳格な基準は、全てのケースを満たすことが困難ではないかと思われることから、慎重な基準作りが必要と考える。
- 学校配置の考え方で他県の基準の例が記載されているが、本県においても、この基準はきちんと示した方が良いのではないか。（外1件）

〈複数の学科を有する高等学校の設置〉

- 幾つかの専門学科で構成した総合高校を設置し、くくり募集として2年次よりコース制として各コースへ進むことができるような教育課程を検討。
- 今後、更に少子化が予想される中、異なる学科を併せ持つ高等学校の再編もあると考えられる。長いビジョンでの計画策定をお願いしたい。（外1件）

頁	項 目
19-22	第4 魅力ある高等学校づくりに向けて
表現等の加除修正に関する意見	
【特になし】	
提言内容に対する意見	
19	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人財は、高校卒業とともに県外へ流出する。義務教育学校との連携を強化し、一貫したキャリア教育を推進することで、それを多少なりとも低減することが可能となると思う。地域の力となる人材を高校教育の一つと捉え、人口流出抑制の一助となる環境を作って頂きたい。 ○ <u>情緒学級</u>（特別支援学級の一つ。情緒障害のために、通常学級での教育では十分に成果が期待できない子どもが在籍して、基本的には通常の学級と同じ教科等を学習するのに加え、例えば自閉症などの子どもには、対人関係の形成や生活に必要なルールなどに関することを学習している。）の生徒にとって、<u>教育を受ける機会の平等という視点から、定時制課程の高等学校が中核ではなく、全高等学校に進学できるような体制づくりを是非推し進めていってほしい。</u> ○ <u>高校があることによって、高校生が地域の活動に関わり地域の活性化が図られ、維持されている。今後とも、高校生と地域住民が一緒になって地域活動ができるよう配慮頂ければ有り難い。</u> (外1件)
21	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化や過疎化が進行し、ICT技術が発展していく中で、今後の高等学校における遠隔教育の在り方を検討する必要性について、これまで各種提言が示されてきたと聞いている。少子化や過疎化は更に進むものと思われるし、ICT技術も更に発展していくと思われること、また、小規模校を生かす方法として、<u>遠隔教育の導入について積極的に進めていただきたい。</u> ○ 青森県の高校生の大学進学率は4割を超えている状況であり、様々な大学を目指す生徒が増えることが予想される。今後も一層大学進学を目指す意欲的な生徒の能力伸長に努めていくべきと考える。
22	○ <u>全国からの生徒募集などについて、積極的に推進する仕組みを整えて欲しい。</u>

その他
表現等の加除修正に関する意見
○ グローバリゼーションに伴う <u>社会の多様性（ダイバーシティ）</u> に生徒がどう対応すべきかの視点での記述も必要ではないか。
○ 「検討」という言葉が多く見受けられるが、これからの審議で具体的にしていくのか、「検討」のまままで答申するのか？方向性がある程度決まっているのであればお知らせ願いたい。（例えば、第2－3（2）中高一貫教育・連携型）
提言内容に対する意見
○ 高校は生徒のためにあるのだから、 <u>地域の振興・地域の衰退という観点にとらわれずに議論した方がよい。</u>
○ 生徒（中学生）個々の進路希望の達成を実現するためにも、入試制度の再検討が必要ではないか。
○ 今回の教育改革については報道等で取り上げられているが、社説などの単発紹介が多い。シリーズものなど、継続して県民に考えてもらえる企画をして新聞社等に持ち込んで欲しい。一般的には、今回の教育改革が県教委や一部の関係者ですべて進められているという印象があるので、更なる一般県民への周知が必要と考える。
○ 少子化が加速する中、一定の教育水準・効果を維持するためには、今後様々な困難が予想される。それを克服するため今回のような意見が出されたと思う。 <u>どの意見も高校生の将来を考えたすばらしいものであるが、これらの考え方を統廃合による方法だけでなく、英知を結集して他の様々な方法も考案して実現していただきたい。</u>
○ 生徒数の減少に対して県立高校を学級減していくだけではなく、私立高校にも相応の負担をしてもらうことを考えても良いのではないか。
○ <u>個別の高校の統廃合、募集停止及び存続に関する意見・要望…13件</u>